

## 6. 国内参考事例

### (1) ベストアメニティストジアム

#### 1) 概要

佐賀県鳥栖市にある球技専用スタジアムであり、Jリーグ・サガン鳥栖のホームスタジアムとなっている。過去にはキリンカップサッカー'00（スロバキア vs ボリビア）やJFA プリンスリーグ（高円宮杯全日本ユースサッカー選手権大会）、男子サッカーアジア最終予選（ロンドンオリンピック予選）U-22 日本代表対 U-22 マレーシア戦など、多くの大会の舞台となった。また、ジャパンラグビートップリーグなど、ラグビー・フットボールの大会なども多数開催されている。

本施設は、JR 鳥栖駅構内の操車場跡地に建設されているため、駅から近く、また、最寄の鳥栖 IC からのアクセスも良く、立地条件に恵まれている。

また、4面を囲む急勾配の観客席は、フィールドを見下ろすように観戦でき、迫力のあるプレーが観戦できると好評であり、見易さや設備、キャパシティー、立地条件などを含めて、多くのサポーターから国内のベストスタジアムと評価されている。



(C) JAPAN PROFESSIONAL FOOTBALL LEAGUE

ベストアメニティストジアム

出典：Jリーグホームページ

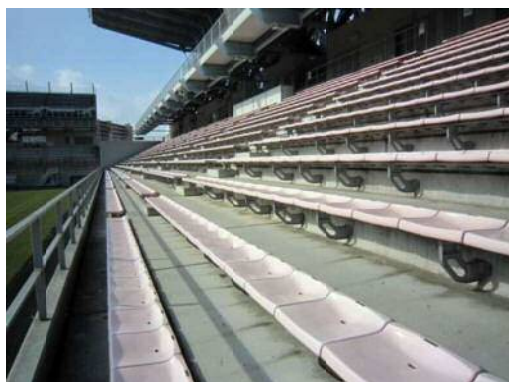


屋根の構造が特徴的

#### 2) 観戦環境

陸上トラックのない球技専用スタジアムであることや、前面にせり出した急勾配の3階席など、どの席もフィールドから近く、角度があるため、プレーが見やすいと好評である。

また、メインスタンド、バックスタンド側の大部分が屋根に覆われているため、声援が反響し、臨場感を高めている。



見やすいと評判の観客席



上部からはフィールド全体を見渡せる

## 3) 運営上の特徴

## a. 命名権

2007年11月より命名権を販売し、年額は3,150万円(サガン鳥栖がJ1に昇格した場合、5,250万円)である。

## b. 多目的利用

スポーツ以外に、野外クラシックコンサート「さが国際交流音楽祭・ミレニアム GARA クラシカ」、屋外映画鑑賞会「キネマ DE スタジアム」、テレビ番組のクイズ大会など様々なイベントが開催され、多目的に利用されている。

## c. 地域貢献活動

同スタジアムの管理者である(財)鳥栖市地域振興財団が、様々な地域貢献活動を実施しており、主な活動は以下のとおりである。

**芝生普及活動**…芝生のある生活を多くの方に楽しんでもらうため、一般家庭への芝生普及活動として、芝生管理セミナー「家庭における芝生管理セミナー」を無料で実施している。この活動は今後、校庭緑化運動を地域住民が側面的に支える体制づくりという目的もある。

**スタジアム一般開放イベント**…スタジアムが市民・サポーターにとって、身近な存在になることを目的に年に2回開催している。プログラムとしては、フィールドを「フットサルエリア」、「ちびっこエリア」(ソフトバレー)、「サッカーエリア」(フリーキックに挑戦)、「ふれあいエリア」(フライングディスクゴルフなどニュースポーツ)の4つに分割し、それぞれに自由に楽しむことができる。これらのイベントには、サガン鳥栖の所属選手が飛び入りで参加し、サポーターと一緒に遊ぶこともある。

**スタジアム金婚式**…その年に結婚50周年を迎える鳥栖市内在住の夫婦を招き、Jリーグ公式戦開催前にスタジアム金婚式を開催する。大勢のサポーターが見守る中、盛大に開催され、記念品として50年前の新聞の1面のコピーが贈呈される。

**施設見学**…スタジアム見学や遠足、職場体験等、子供の遊びや社会学習の場を提供している。

正式名称：鳥栖スタジアム

所在地：佐賀県鳥栖市京町 668-1

完成：1996年5月

収容人数：24,682人

規模：建築面積=10,037 m<sup>2</sup>、延床面積=20,531 m<sup>2</sup>、スタンド面積=10,244 m<sup>2</sup>

フィールド：125m×78m(暖地型芝+寒地型芝)

諸室：選手関連=更衣室、シャワー室、ウォームアップスペース、運営関連=本部室、事務室、医務室、審判控室、記録室、VIP席、VIPラウンジ、ドーピングコントロール室、報道関連=放送室、記者室、記者席、カメラマン控室、インタビュールーム、一般=入場券売場、売店。

本体構造：S造3階建

建設費：約67億円

所有者/管理者：鳥栖市/(財)鳥栖市地域振興財団

## 第一章 計画条件の整理

### (2) 県立カシマサッカースタジアム

#### 1) 概要

茨城県鹿嶋市にあるサッカー専用競技場で、日本で最初の本格的なサッカー専用スタジアムとして整備された。

陸上トラックがなく、近くでプレーを見られる環境と全席を覆う屋根は、当時としては他に例がなく、「サッカーの聖地」にふさわしい存在であった。

カシミアントラーズのホームとして多くのサポーターから利用され、2001年5月には2002FIFAワールドカップ開催に向けて増改築され、15,000人から41,000人へと収容人数が増やされた。

初のJリーグ公式戦鹿島 vs 名古屋が開催された他、2002FIFAワールドカップ等、大規模な大会が多く開催されている。

2006年には他の施設に先駆けて、クラブチームである(株)鹿島アントラーズFCが指定管理者となり、通常のスポーツ利用以外のサービスも展開し、施設の有効利用を図っている。



(C) JAPAN PROFESSIONAL FOOTBALL LEAGUE

県立カシマサッカースタジアム

出典：Jリーグホームページ

#### 2) 観戦環境

トラックのないサッカー専用のフィールドは、選手との距離も近く迫力のあるプレーが楽しめる。また、客席が急角度であるため、前の人が立ち上がったとしても、観戦の邪魔にならない点などサッカーを思う存分観戦する環境が整っている。

また、地元の商店が運営する売店などのアメニティ施設が充実し、祭りのような雰囲気であるとサポーターから好評である。

#### 3) 運営上の特徴

2006年に指定管理者が公募され、「収入の拡大策とその実現性」、「経費の削減策とその実現性」、「スタジアムの利活用方策」などが評価され、(株)鹿島アントラーズFCが特定された。既存の体育施設の運営にはとらわれない、取り組みを実施し、施設の有効活用を図っている。

##### a. カシマサッカーミュージアム

バックスタンド側に整備され、鹿島アントラーズやワールドカップに関する史料が多く展示されている。アントラーズの歴史や歴代選手、プレー映像、ユニフォーム等が展示され、クラブの歴史と活躍を反映した内容になっている。通常時は一般に開放されているが、試合開催日には、当日観戦するサポーターのみへの開放となる。

また、人気の企画として、バックステージツアーがあり、日頃観戦できないピッチや選手ロッカー、記者会見室、放送室等を周ることができ、試合のない日に開催されている。

b. カシマウェルネスプラザ

バックスタンドで運営するフィットネスクラブで、最新のトレーニングマシンと専門インストラクターの指導により、多様なトレーニングメニューができる。

スタジオプログラムは特に豊富で、ストレッチやボールエクササイズ、エアロビクス、ピラティス、ヨガ、フラダンスなど多くのプログラムが用意されている。

また、3階コンコースはウォーキングコースとして、無料で自由に利用することができる。

c. スタジアムビアガーデン

毎年、夏に営業されている企画で、スタジアムの1階コンコースでビアガーデンが楽しめる。様々な出演者によるステージが開催されるほか、大型映像装置を使用してアウェイゲームをパブリックビューイングできる企画は好評である。

4) その他

二酸化炭素排出量削減や再生可能エネルギーの利用を促進するため、国のグリーンニューデール基金を活用し、駅からスタジアムに向かうルートに大規模な太陽光発電を設置した屋根付き通路を整備した。

現在は、これの拡張を図るため、「カシマサッカースタジアム利活用推進協議会」が募金を募っている。

<p><b>正式名称</b>：カシマサッカースタジアム</p> <p><b>所在地</b>：茨城県鹿嶋市神向寺 26-2</p> <p><b>完成</b>：1993年5月</p> <p><b>収容人数</b>：40,728人</p> <p><b>規模</b>：建築面積=30,449 m<sup>2</sup>、延床面積=85,019 m<sup>2</sup></p> <p><b>フィールド</b>：115m×78m(ケンタッキーブルーグラス)/スプリンクラー・地温コントロールシステム併設</p> <p><b>諸室</b>：<u>選手関連</u>=更衣室、ウォームアップスペース、<u>運営関連</u>=運営本部室、競技本部長室、関係者室、医務室、ドーピングコントロール室、審判更衣室、大型映像操作室、スタジアム管理事務所、来賓室、<u>報道関連</u>=テレビ・ラジオ放送室、放送関係者室、カメラマン室、インタビュー室、</p> <p><b>本体構造</b>：鉄筋コンクリート造/鉄骨鉄筋コンクリート造/鉄骨造混構造/地上6階建</p> <p><b>所有者/管理者</b>：茨城県/(株)鹿島アントラーズFC</p>
--

(3) 日本製紙クリネックススタジアム宮城

1) 概要

宮城県仙台市の宮城野原公園に位置する野球場で、当初は1950年に整備された地方球場の一つであった。しかし、2004年の東北楽天イーグルスのプロ野球参入に伴い、大規模な改築が行われ、日本におけるボールパークの先駆的な存在として生まれ変わった。



日本製紙クリネックススタジアム宮城

本球場は「設置管理許可制度」を活用して本球場をフランチャイズとする楽天球団自らが改修や管理・運営にあっている。このため、公共施設の枠に収まらない魅力的な施設やサービスを展開し、施設の有効利用が図られている。

また、国内では早い時期からネーミングライツを採用したのも本施設であり、これ以降多くの施設でネーミングライツが採用されるようになった。

2) ボールパークを形作る取り組み

本球場はプロ野球に新規加入した東北楽天イーグルスの本拠地として、新たに改修されたものであり、新しい球団にふさわしい新たな取り組みが随所にある。

ボールパークはメジャーリーグのイメージが強いが、当球場の場合、1950年に整備された古い宮城球場がベースとしてあり、その歴史を引き継いだ“ここにしかないボールパーク”のあり方を表現している。以下にその取り組みを列挙する。

a. ボールパーク養成ギブス

メインスタンドの既存建築に負荷をかけることなく球団関係諸室やショップなどを新設し、機能を強化するという意味から「ボールパーク養成ギブス」というユニークなネーミングが与えられた。スタジアムの顔として、利用者を迎え入れる特徴的なファサード※となっている。

b. 楽天山

本球場におけるボールパークの象徴的な存在として楽天山がある。レフト側外野席に位置するなだらかな楽天山は、家族連れでレジャーシートを敷いて楽しく野球が観戦できる個所である。これらは野球場の外のランドスケープと連続性を確保し、球場に広がりを感じさせるという役割がある。楽天山には球場周辺のコンコースなど球場を一周するコースが設置され、野球が行われていない時でも外野から球場内を見ることが出来、また、試合の際には外部からブルペンやフィールドの一部が見える個所があり、球場の雰囲気を外に伝え、新たな集客につなげている。



楽天山

※ファサード：建物の正面。又は、建物の外観を構成する主要な壁面。

## c. フィールドシート・砂かぶり席

これまでの日本の野球場は安全性を重視するあまり、観客席とフィールドの距離が遠く、間にはネットがあることなど、結果として観戦しにくい施設ばかりであった。

野球の本場アメリカでは、選手と観客の距離が近く、迫力あるプレーが楽しめるが、観衆はプレーに集中し、打球を追うため、けが人はほとんど出ていない。

このため、よりプレーを楽しみたい観客のため、フェールグラウンドに張り出した「フィールドシート」やバックネット手前のグラウンドを掘り下げて作られた「砂かぶり席」がある。これらは迫力のあるプレーが楽しめる席として人気があり、本施設の整備以降、同様の施設が各地で誕生している。



砂かぶり席

## d. VIP ルーム・ボックスシート

当球場にはVIP ルームやボックスシート、ファミリーシートなど、利用者の観戦スタイルに合わせた観客席がいくつも存在し、様々な楽しみ方ができるようになっている。特にファミリー席は稼働率の高い人気の座席となっている。



VIP ルーム



ボックスシート

## 3) 設置管理許可制度

本球場は宮城野原公園内に位置する野球場であり、都市公園法第5条の設置管理許可制度を活用して、整備・運営されている。

都市公園法第5条には公園管理者である地方公共団体自らが管理することが不適当な売店などの施設や専門性その他の理由により、公園管理者の管理が困難と認定されたものに限って、公園管理者以外の者が、施設を整備し、管理運営することを認めていた。さらに、平成16年の法改正によって、「当該都市公園の機能の増進に資する」場合においても、管理を許可することが出来るようになった。

本球場はこの制度を活用したもので、公園所有者である県と楽天球団の間で「フランチャイズ基本協定」が締結されている。この中では、楽天球団自らが施設を整備し、県に寄付した上で管理・運営を行っている。

## 第一章 計画条件の整理

近年、多くの施設で採用されている「指定管理者制度」との違いは、指定管理者制度が公園全体の管理を委ねるのに対し、設置管理許可制度は公園施設の一部を対象とすることである。また、指定管理者制度は管理のみを対象とした制度であるのに対し、設置管理許可制度は施設の設置を含めた許可を与えるという点が異なっている。

結果として、既存施設の枠にとられない施設整備やサービスを展開しており、施設運営の一つの手法として、参考となる施設である。

### 4) ネーミングライツ（命名権）

本施設は国内で、早い時期に「ネーミングライツ」を採用した事例である。ネーミングライツは近年、スポーツ分野を中心とする公共施設の名称を販売することで、企業には広告効果があり、施設にとっては管理費を補充する利点がある。

本球場の命名権は、楽天球団を代理店とする契約が結ばれており、選定は県が、募集・契約は楽天球団が担っている。現在は日本製紙(株)が命名権を取得し、「日本製紙クリネックススタジアム宮城」として、年間2億円(消費税別途・平成23年1月より3年間)で契約している。

他に県と楽天球団は設備命名型契約も締結しており、映像装置に「創造電力ビジョン」の名称がつけられている。

### 5) 行政の支援等

東北楽天イーグルスがプロ野球参入を決めたのが、2004年11月で、プロ野球開幕が翌3月26日とわずか5か月後には球場の一期改修を完了しなければならなかった。このため宮城県では、早々に「宮城球場フランチャイズ支援局」(現楽天イーグルス支援本部)を立ち上げ、短期間での球団の活動拠点整備を支援した。

この中では、球場の管理許可を与えると共に、宮城県や仙台市が改修工事の申請を迅速に処理し、工事の許可を出すという協力もあった。

<b>正式名称</b> ：宮城球場
<b>所在地</b> ：宮城県仙台市宮城野区 2-11-6
<b>完成</b> ：1950年5月(2004～2008年改修)
<b>収容人数</b> ：23,026人
<b>規模</b> ：建築面積=13,193 m <sup>2</sup> 、延床面積=25,767 m <sup>2</sup>
<b>フィールド</b> ：両翼 101.5m、中堅 122m、ロングパイル人工芝
<b>本体構造</b> ：鉄筋コンクリート造/鉄骨鉄筋コンクリート造/鉄骨造混構造/地上6階建
<b>主な利用状況</b> ：東北楽天イーグルス公式戦 69試合、読売巨人公式戦 1試合、オールスター戦 1戦、アマチュア野球イベント等約 59回 (いずれも平成19年実績)
<b>所有者/管理者</b> ：宮城県/(株)東北楽天野球団

(4) マツダズームズームスタジアム広島

1) 概要

広島県広島市に位置する広島東洋カープの本拠地球場である。築50年を経過し、老朽化した旧広島市民球場に代わって、2009年に整備された。

最新の野球場であり、観客が楽しめる多様な観戦環境を用意している。



マツダズームズームスタジアム

2) 多様な観戦スタイル

以下に多様な観戦席の一部を示す。



家族で気兼ねなく応援できるテラスシート



焼き肉をしながら野球観戦



寝転がって、シートで観戦



外の景色も楽しめるゲートブリッジ席



前後の人を気にせず観戦できるウッドデッキ席



スポーツバーから観戦できる

正式名称：広島市民球場

所在地：広島県広島市南区南蟹屋 2-3-1

完成：2009年3月

収容人数：33,000人

規模：建築面積=22,964㎡、延床面積=39,524㎡

フィールド：左翼101m、右翼100m、中堅122m、天然芝

本体構造：鉄筋コンクリート造/プレキャストコンクリート造/鉄骨造/地上7階 地下1階

所有者/管理者：広島市/(株)広島東洋カープ



## 第一章 計画条件の整理

### (5) J-GREEN堺

#### 1) 施設の概要

堺市の臨海部開発事業の一環として整備された施設で、サッカーをはじめとするスポーツレクリエーションの振興や市民の健康づくり、イベントの誘致・開催など、スポーツ交流の一大拠点として整備された。

当施設は、関西国際空港から近い立地条件を最大限に生かし、海外に遠征する直前の日本代表の練習や合宿、海外チームの練習など、日本全国そして海外に広く扉を開いていくとしている。

当施設は堺市が主体となり、他に大阪府、(独)日本スポーツ振興センター(いわゆる toto 助成金)、(財)日本サッカー協会が共同出資して整備されている。また、(財)日本サッカー協会と(社)大阪府サッカー協会は年間 3,000 件の利用を担保していることなど、施設整備から運用面を含めた協力関係にある。

サッカーのナショナルトレーニングセンターとしては、国内 3 箇所目の施設であり、天然芝、人工芝を合わせて 14 面の当施設は、J ヴィレッジ(13 面)、J ステップ(2 面)を上回る日本最大のトレーニング施設であると共に、先行する 2 つの施設で得られた知見を活用し、より利用しやすい施設が整備されている。

また、施設の管理は指定管理者制度を活用しているが、施設整備の 1 年前に管理者を特定し、十分な準備を行っていることも特徴である。

これまで懸案事項となっていた宿泊施設は 2012 年 4 月にオープン予定であり、利便性がさらに高まる予定である。



Jグリーン全体

#### 2) 各部施設計画

##### a. 配置・動線

施設整備にあたって配慮された点としては、ロッカーハウスや駐車場などを分散配置し、一方通行の外周道路からダイレクトにアプローチできるよう配置し、各施設の利便性を高めると共に、歩行者にとっても安全な歩行空間が確保されている。



施設配置図

## b. フィールド

大規模大会にも利用できるメインフィールドは、天然芝で約 3,000 人の観客席のスタンドを有している。他に天然芝フィールド 4 面があるが、芝のコンディションを保つため、利用を週最大 4 コマ(1 コマは 2 時間)までに制限し、ローテーションして使用している。

天然芝はティフトン 419 をベースにウィンターオーバーシードを施している。また、床土は千葉県君津産の砂を使用している。

他に人工芝のサッカーフィールドが 8 面あり FIFA 公認人工芝を使用し、このうち、2 面には照明設備を設置している。



メインフィールド

## c. クラブハウス

会議室、ミーティングルーム、多目的室、医務室、レストラン、売店などが整備され、施設利用者の利便性を高めている。

他にメインフィールドで大会を実施する際に使用する施設として、更衣室、シャワー室。大会運営室、審判室、記録室、放送室などがあり、2 階建てで延床面積は約 2,400 m<sup>2</sup>となっている。



クラブハウス

## d. ロッカーハウス

当施設は敷地面積が大きく、各フィールドの近くに便利施設を整備した方が効率的であるという観点から、敷地内 4 か所に駐車場と合わせて、分散配置されている。

施設はシャワー付きロッカー室、更衣室、トイレなどが整備され、供用利用の場合は無料、専用利用の場合は有料と設定されている。



ロッカーハウス

**正式名称**：堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター

**所在地**：大阪府堺市堺区築港八幡町 145 番地

**完成**：2009 年 12 月

**敷地面積**：35.4ha

**主な施設**：ドリームキャンプ(宿泊施設)、クラブハウス、ロッカーハウス、メインフィールド(天然芝・スタンド付)、天然芝サッカーフィールド 4 面、人工芝サッカーフィールド 8 面、人工芝サッカーフィールド(400mトラック付)、人工芝フットサルフィールド 8 面(内 3 面は屋根付)。

**整備費**：57 億円

**所有者/管理者**：堺市/ジェイズパークグループ